



# みぬま通信 第67号

2016年7月



## 見沼たんぼくらのイベント

### 平成28年度見沼たんぼくらの総会を開催

平成28年4月16日(土)午前、見沼グリーンセンターにおいて「平成28年度総会」を開催しました。総会では「平成27年度事業報告及び決算報告」が承認され、引き続き「役員改選」で「28年度～29年度役員」が選出された後、「28年度事業計画及び予算案」が可決され、平成28年度がスタートしました。

### 平成28年度～29年度 見沼たんぼくらの役員

会 長	新井 一裕 (さいたま市中央区)	再任	副会長	厚澤 正栄 (さいたま市緑区)	再任
副会長	小野 達二 (さいたま市見沼区)	再任	副会長	三上 雅央 (さいたま市浦和区)	再任
理 事	北原 典夫 (さいたま市中央区)	再任	理 事	佐々木明男 (さいたま市見沼区)	再任
理 事	佐藤 清章 (さいたま市浦和区)	新任	理 事	島田由美子 (さいたま市見沼区)	再任
理 事	砂長 敏郎 (さいたま市桜区)	再任	理 事	関根 通雄 (さいたま市浦和区)	再任
理 事	高橋いずみ (さいたま市浦和区)	再任	理 事	田母神昭八 (さいたま市大宮区)	新任
理 事	長澤 義則 (さいたま市南区)	再任	理 事	西片 昇 (さいたま市浦和区)	新任
理 事	召田 紀雄 (さいたま市西区)	再任	理 事	八木 一郎 (さいたま市浦和区)	再任
理 事	若月きみ子 (さいたま市見沼区)	再任	理 事	若野 忠男 (春日部市)	再任
監 事	肥田野徳春 (さいたま商工会議所)	再任	監 事	鈴木 正美 (JAさいたま)	再任
顧 問	勝村 直久 (県土地水政策課長)	新任			(三上 雅央記)

### 見沼ふれあい農園づくり 京芋・里芋・八つ頭・生姜栽培

今年で5回目の栽培が見沼たんぼ(緑区見沼)で始まりまし  
た。曇り空の5月2日に会員32名が種イモの植え付けを行  
いました。場所は昨年と同じ3号農地で耕地面積は約1200㎡  
です。去年、丁寧に石拾いをして農地整備したにもかかわらず  
まだまだ瓦礫はでてきています。新たに一か所T字型に大きな  
コンクリの塊が埋まっているのがわかり、そこを避けての栽培  
となりました。



作業はまず全員で石拾い草取りを行い、その後、耕運し終わ  
ったところから種イモを植え付けていきました。植え付けた種イモの量は、里芋50キロ、生姜40  
キロ、京芋10キロ、八つ頭30キロです。当日は8時に集合し、すべて作業が終了したのが10時  
30分頃で前年より2時間ほど早く完了しました。 植え付け後の作業は8月4日まで2週間～3週間  
毎に除草を中心に5回予定されており、2回目の5月31日(30日が雨で順延)には埼玉県企画財  
政部新規職員等12名が社会貢献活動の研修として参加していただきました。

今年も天候に恵まれ、秋には大収穫になるよう期待して、例年どうり福祉団体に寄贈を予定してお  
ります。

(三上 雅央記)

# 見沼たんぼくらのイベント

## 第64回自然観察ハイキング

『見沼の自然と史跡を訪ねて』

見沼通船堀から浦和くらしの博物館民家園へ

3月21日（月・振休）9時、東浦和駅前広場に35名が集まり、5班に分かれて出発。

各班にNPO法人自然観察さいたまフレンド所属の自然観察指導員2名が付いてガイドを務めた。

見沼通船堀・鈴木家住宅・水神社・木曾呂の富士塚など文化財を見学しながら、早春の花を観察した。

桜の花は、ソメイヨシノがつぼみ、カワヅザクラが散っていたが、アンギョウザクラが満開だった。人気のあった花木は、黄色づくしのサンシュユ・トサミズキとヒュウガミズキ、レンギョウとチョウセンレンギョウだった。

野草の花では、美しいコスミレとタチツボスミレ、菜っ葉が美味しいショカツサイとセイヨ



▲ 満開の安行桜（アンギョウザクラ）

ウカラシナ、埼玉県指定絶滅危惧種Ⅱ類のノウルシに目が向いた。

芝川第一調節池は水鳥の楽園だった。留鳶のカルガモやカイツブリ、バンなどに交じって、冬鳥のキンクロハジロが残っていた。

（小野 達二 記）

## 第65回自然観察ハイキング

「神明社・鷺神社&春の七草とサトザクラ」

本年度最初の自然観察ハイキングは4月16日（土）13時から見沼田圃の北西部を対象として、薄曇のもと31名参加・4班編成により実施した。



コースは市民の森－川島橋－神明社－防風林－芝川左岸－鷺神社－芝川鷺山橋－見沼2丁目田圃－見晴公園

園・風車棟－市民の森である。見沼代用水西縁に架かる川島橋周辺は江戸中期から昭和初期に亘り見沼通船堀を經由した舟運の船着場のあった場所から始める。これより西縁上流には杉・椎の大木に囲まれた神明社がある。石造の鳥居は笠木の下に島木を置かない神明系鳥居である。鳥居の近くに大型の三猿が刻まれている3基の庚申塔があり江戸期の庚申講が偲ばれる。この境内にはかつて県指定天然記念物であった「土呂の大杉」の切り株を見ることが出来る。神社北側の見沼公園にはヤマザクラ系の八重の「ウコン」と「カンザン」が丁度満開で参加者がカメラを向ける。市民の森北側の防風林の地表には木本のクサイチゴが白色花を咲かせている。芝川左岸には1mにも丈が伸びた花盛りのセイヨウカラシナが神明下橋から鷺山橋間の多くを占めている。その中に先端を千切られた茎もあるが、花の咲く前に食材として採取されたのだろう。鷺神社は旧大和田村の鎮守様で、見沼龍神の笛の伝説がある。社殿は幕末の安政2（1855）年の建築である。鳥居は先程の神明社と異なり、笠木に反りがあり、鳥木もある石造の明神系のものである。境内にはムクロジの大木があり、ある班ではそのたねの果皮を水に溶かし泡立て実験も行う。又、社殿傍にサカキとヒサカキがありその比較説明もさせて頂く。見沼2丁目田圃は水田のある所で、花の咲くコオニタビラコを観察する。春の七草のうち6種類程見付けることが出来た。見晴公園風車塔を経て市民の森に着き解散となる。（若野 忠男記）

# 見沼たんぼくらのイベント

## 第106回見沼塾

### 氷川神社・氷川女體神社・中山神社

5月28日(土)午前、大宮図書館視聴覚ホールで、大宮郷土史研究会会長の織本重道先生のご講義を拝聴した。参加者は45名だった。



▲ 画像を示して解説する織本重道先生

#### 氷川神社

約280社の総本社が大宮の氷川神社である。元々は水(水源)の神を祀ったものではないか。

社伝では、考昭天皇3年4月(前473)に出雲国簸川の川上に鎮座する杵築大社を写し祀ったという。

#### 中山神社

中山神社の名は中川村の中と上山口新田の山をとった。中川の氷川神社で、大宮の氷川神社と宮本の氷川女體神社の中間という意味で中氷川神社と呼ばれた事実は認められない。

旧社殿は大宮氷川神社の古い形である。

#### 氷川女體神社

大宮氷川神社・中山神社・氷川女體神社三社一体説があるが、その根拠を示すものはない。野尻靖氏がいわれるように、三室女體宮が大宮氷川神社と関係を持つのは中世末以降である。元々は見沼の漁獵師を祀ったものではないか。

(小野 達二 記)

## 第107回見沼塾

### 「見沼代用水開設の立役者 井澤弥惣兵衛為永」

本見沼塾は5月29日大宮図書館視聴覚ホールでの青木義脩先生(見沼の歴史と文化の会会長)の講演である。参加者は35名。井澤弥惣兵衛為永は紀州藩士で既の実績のある土木水利技術者であり八代将軍吉宗により60歳の享保7(1722)年召し出され幕臣(旗本)となり、見沼をはじめ紫雲寺潟干拓など各地の新田開発・河川改修に携わる。

見沼は享保12(1727)年秋から翌年春にかけて、見沼溜井を干拓し、その用水を上越国境の豪雪地帯に水源を有する利根川表流水に求めて見沼溜井に代わる用水として開拓している。八丁堤切開-見沼排水-芝川開削(加田屋川も)-新田造成-代用水開削-元坎設置-水下村(下流の村)への用水路に直結-流水の工程である。見沼代用水路・芝川開削工事には資金2万両、労役90万人を要した。

見沼代用水により見沼新田1200町歩と共に従来見沼溜井に依存していた水下8か領の耕地が潤ことになる。この「代用水」の取水口(元坎)を今の行田市下中条に選び、途中星川を利用して、柴山で元荒川、瓦葺で綾瀬川との交差点では伏越・掛渡井(樋)設置している。

掛渡井は水運両用だが柴山では後に破損して廃止される。また、瓦葺からは大宮台地に沿って東縁・西縁の2本に分流する。この工事では台地縁沿いでは切土、低地の直線部では築越による造成、更に緩勾配の地形での優れた測量技術は誤差のより少ないものとし、全工程を半年という期間で工事を完了している。新田開発は村請によるが鍬下年季3年(非課税期間)である。

鍬下年季の切れる3年後の享保16(1731)年には閘門式運河である通船堀を設置し、見沼代用水・芝川を通じて江戸との舟運を実現させている。

現在、舟運は鉄道・トラックなど陸上輸送に置き替えられるが、拡大している水需要はこの利根川からの取水による見沼代用水の機能活用によりその供給を果すことになっている。

(若野 忠男記)

# 見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

## 大崎公園・こども動物園（さいたま市緑区大崎）

大崎公園は見沼代用水東縁に沿った場所に造られた、災害時の避難場所としての機能も持っている池と芝生のある公園で、年間を通して市の内外から遠足やハイキングの人々が訪れる。

その一角に子供動物園があり、レッサーパンダ・リス・フラミンゴ・羊や日本鹿など45種などがある。中小動物が主で規模は小さいが、リスや子ヤギなどと交流でき、親子連れで賑わう。

## 大道大橋からさいたま新都心を遠望

（さいたま市見沼区上山口新田）

首都高速が第二産業道路に合流する新大道橋上から



新都心方面を遠望した。

首都高速埼玉新都心線には、見沼たんぼ固有の生態系を復元するため、高架下に延長1.7kmのビオトープ（地域の野生の生き物が暮らす場所の意）が設けられており、キツネ、タヌキ、ホオジロなど多くの生き物が確認されている。手前には上山口新田の水田が広がり、水田に映る新都心の風景や、夕日が雲に映える美しさは、多くの人々の心をとらえ、見沼たんぼを代表する風景の一つ。

## 絵と解説 八木一郎



## 鈴木家住宅（緑区大間木）（2015年4月26日画）

見沼通船堀の船割役を担っていた鈴木家の住宅は、米蔵などと共に江戸時代後期に建立され、見沼通船堀とともに国指定史跡となっている。

付属建物では、かつて見沼代用水の水運に利用されたヒラタブネ（平田舟・底が平らな吃水の浅い舟）を約二分の一に復元した舟が公開されている（毎週土曜日）。江戸へ上るときに芝川では竹竿を使い、荒川に入ると櫓で漕いだといわれる。帰りは川口まで櫓を、芝川からは棹と二本の綱で引き、南風があるときは両川とも帆を使ったという。



## 見沼たんぼくらぶ会員作品展

### 見沼自然公園

作者 飯盛サチ子

12月はじめの見沼自然公園は、芝生広場にあるメタセコイア（別名 アケボノ杉）が紅葉していました。

この日は風もなく、空の青さとメタセコイアのオレンジで公園全体が輝いていました。



# 見沼たんぼ探訪記

## 大宮公園の桜

3月の末大宮公園に行くと、広い公園の中にはおよそ1000本は超すとされる桜の木は、6分咲き程の花を見せてくれた。夕方になっても日中の暖かさは続いており、桜花を求めて大勢の人たちが繰り出している。会社帰りのOL風の人たち、子供たちと一緒に来た家族連れ・・・等、色々な姿が見られる。

焼きそばや太鼓焼き等、それこそ沢山な露店が隙間の無いほど通路に沿って立ち並んでいる。どの店も赤や黄色の字で、「フライドポテト」とか「からあげ」等と、扱う品々を幟に大きく記し、賑やかな雰囲気を一層賑やかにしている。

店の前を通る人たちに向かって「いらっしゃい・・・、美味しいですよ」とばかりに呼びかけ



ており、元気溢れる大きな声なので、思わず声につられてお店に誘い込まれてしまう。

桜の下にビニールシートを敷いて腰を下ろし、桜花を楽しむグループがあっちにもこっちにも見られる。大きな声で歓談しているグループ、静かに向き合って会話をしているグループ・・・等、それぞれがそれぞれの楽しみ方をしている。

夕方の暗さが次第に増してくるが、それとは逆に店々の灯りやボンボリの光が明るさを増してくる。こうした中で多くの人たちが桜を楽しんでいるが、満開に至る折にはさらに多くの人たちが繰り出し、存分に桜花を觀賞することであろう。

(召田 紀雄記)

## こじんまりした見沼公園

### 華やかなサトザクラで埋まる

見沼たんぼ地域には、“見沼公園”という名称の公園は一つしかない。北区見沼2丁目にある市民の森・市民農園から見沼代用水西縁を隔てた向かい側の北区土呂2丁目にある。いかにも、こじんまりした小公園である。

ちょっとした遊具があり、清楚なトイレもある。近所の子どものための遊び場、近所の主婦たちの井戸端会議の場でもある。

ここは、4月中旬になると、二種のサトザクラの華やかな花で埋まる。

鬱金（ウコン）：淡い黄緑色の花が咲く。

関山（カンザン）：濃紅色の八重の花が咲く。



▲ 花盛りの鬱金（ウコン）



▲ 八重桜の関山（カンザン）

(小野 達二 記)

# 見沼たんぼの仲間たちNo.38

## こぐま保育園の菜の花摘み

園長 増永久美子

こぐま保育園は、案山子公園のすぐ近くに在る保育園で0歳児～5歳児の子どもたち100名と生活しています。

4月12日「見沼たんぼくらぶ」の皆さんが育てた菜の花を摘む機会を作っていただきました。当日は天気も良く、3歳児～5歳児の子どもたち50名、引率の保育士8名とで朝9時半に保育園を出発しました。前日からとても楽しみにしていたので、子どもたちの足取りは軽く、あっという間に着いてしまいました。

着くと、そこは一面黄色の菜の花畑。子どもたちも思わず歓声をあげていました。初めに「見沼たんぼくらぶ」の会長さんのお話を聞きました。



手で摘んでもハサミで切ってもいいよ というお話を聞いてから、花摘みの開始となりました。

3歳児クラスの子供たちは、背の丈より育った菜の花の間にできた通路を嬉しそうに歩き、時折かくれんぼをしながら、担任保育士に切ってもらいました。4歳児クラスの子供たちは、自分でハサミを使って菜の花を摘んでみました。左手で茎を持ちながら右手のハサミで切るという経験はなかなか無いことなので、少し難しいところもありましたが、集中して切っていました。

子どもにしてみると茎を長く菜の花の摘むの

が自慢であり、嬉しくもあり、菜の花を抱えきれないほど持っていました。

年長クラスの子供もたちは、「こういう 花の咲



いていない脇芽を食べると美味しいんだよ」と「見沼たんぼくらぶ」の方に教えてもらおうと上手に脇芽をかいていました。

帰る子どもたちのリュックからは長い菜の花が飛び出ていて、その後ろ姿がとても可愛かったです。帰り道に、行きかう人が“いいもの持っているな〜”と微笑ましく見てくださり、子ども



たちも得意げでした。「おひたしにして食べようね」と摘んだかき菜は、早速保育園のおやつで食べました。

子どもたちは、おみやげに持ち帰った菜の花をお家で飾り、菜の花摘みの様子を家族に楽しそうに話したそうです。菜の花のおひたしも美味しかったと話していました。「見沼たんぼくらぶ」の皆さん 貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

# 見沼たんぼを支える農家さん

## 関根久浩さん

七里コミュニティセンター近くの、木々がこんもりと天を突くように茂っている一角を曲がると、この地で代々農業を営んできた関根さんのお宅があります。

久浩さんは 28 歳まではサラリーマンとして働いていました。ちょうどバブルの頃で、休日も返上で毎日夜遅くまで家庭を顧みる余裕もなく、とにかく忙しかったそうです。だから、家業を継いだ後、「農業は休みがなくて大変だといわれるけれど、まあそんなものかな、という感じだったね。忙しい時は忙しいけれど、暇な時は暇だから」とさりげなく話す関根さん。「いい加減にやっているから」と、笑いながらおっしゃいますが、「『いい加減』は漢字で書けば『好い加減』でしょ」と、茶目っ気たっぷりに話される姿に、努力と工夫に裏付けされた経験の力を感じました。

就農後 4~5 年は父のやり方に従って、その後は自分なりの方法でやっていこうと思っていたのですが、久浩さんが就農して 8 年程経った頃、お父様は 62 歳でご逝去されます。その後はご夫



関根久浩さん

婦とお母様の 3 人で営んでいますが、今はサラリーマンの息子さんも手伝ってくれるそうです。作物は 1 年に 1 作なので、農業は難しい、と語る関根さん。現在は畑と

田んぼ合わせて約 2 ヘクタールと、その他に頼まれた農地を耕作しています。田んぼ自体が地域全体として減っているのです、畑がメインです。

今、野菜はスーパーと直売所で、お米は毎年買

ってくるお得意様に直接販売し、すべて捌けてしまいます。学校給食へ提供していたこともありますが、配達する時間帯が短いうえに、決められた日時に規格に合わせた野菜をまとめて揃えなければならず、直売農家には向かないと思い、やめたそうです。



田植えをする関根さん

40 代の頃はもっと手広くやっていたけれど、子供達も落ち着いた今は、規模の拡大は考えていない。1 年 1 作を基本に、直売用に合わせて栽培を考えている。これからは省けるものは省いて、なるべく楽をして作りたいね、と軽やかに語る関根さん。PTA 会長や水利組合の会長など地域の活動の他、ボランティア活動や趣味を楽しむなど、多彩な時間を持たれてきました。

嬉しいのは、スーパーでお客さんが名前を覚えてくれて買ってくれること。マミーマートから出荷して欲しいと依頼がきたのは、ヤオコーでの人気を聞き及んでのことだったそうです。今 50 代で働き盛りの関根さんにこれからも期待が寄せられていることを感じました。

栗の木が花盛りの、風が爽やかな梅雨入り前の一日でした。

取材：島田由美子・高橋いずみ

文責：高橋いずみ

- \* 関根さんの野菜が買えるお店  
ヤオコー（島町店・蓮沼店）  
マミーマート（南中野店・山崎店）  
膝子直売所

## 見沼たんぼくらのイベント案内

### 見沼ふれあい農園づくり『秋野菜栽培』

2号地（緑区見沼484・見沼氷川公園南側）

★ 大根各種、蕪、京菜、春菊、二十日大根等

① 9月3日（土）種蒔き

\*雨天の場合、10日（土）

② 9月24日（土）除草、間引き

③ 10月8日（土）除草、間引き、収穫

④ 10月29日（土）除草、間引き、収穫

⑤ 11月12日（土）収穫

\*第2回以降は雨天順延

毎回10時集合（9時30分受付）

申込み：7月15日まで、会員（同行の同居家族も）、住所・電話・氏名（フリガナ）・年齢を明記して、葉書 or FAX or メールで事務局まで。

参加費：無料（傷害保険は当会で契約）

● 会員外は別途、埼玉県・見沼田圃ホームページにより応募

### 自然観察ハイキング『見沼の自然と史跡』

氷川女體神社・見沼氷川公園から

浦和くらしの博物館民家園へ

9月18日（日）9時～12時30分

浦和駅東口集合（路線バスで市立病院へ）

\*解散は民家園（すぐ前にバス停「念仏橋」）

申込み：当日、集合地で8時30分～9時受付

参加費：会員は無料（一般は¥500）

## 会員の主宰するイベント情報

### 見沼たんぼ・フナノ保存会設立

個人・団体として入会を勧めます

「見沼たんぼの文化遺産・フナノ保存会」

（正式略称：見沼たんぼ・フナノ保存会）がこの6月22日に設立されました。

稲作文化の象徴として見沼たんぼ独特の藁塚「フナノ」復元を持続・推進する組織です。

森の少ない見沼たんぼでは、燃料とする薪炭が少なく、煮炊きの燃料には藁が必要だったようです。燃料をはじめ田畑の肥料、家畜の餌、籠や草履といった生活用具の材料として必要に

応じて「フナノ」から藁を取り出したようです。

優れた稲作文化の伝承と共に、使い捨て文化を考え直す場ともなります。（発起人小野 達二記）

■ 年会費 個人：¥1,000

団体：¥3,000

連絡先：NPO法人見沼ファーム21

理事長 島田 由美子 さん

（見沼たんぼフナノ保存会代表）

☎&FAX（048）686-2851

e-mail:ys7391@feel.ocn.ne.jp

### 見沼たんぼくらの会員募集中！

■ 季刊『みぬま通信』をお届けします。

4月・7月・10月・1月発行

■ 埼玉県土地水政策課の支援のもとに、見沼たんぼ地域の里やまで、様々の体験事業を展開しています。

○...見沼ふれあい農園づくり

農地はスタッフが耕運し、畝づくりを済ませ、種蒔き・植付から除草、収穫までの作業です。

「京芋・里芋・八つ頭栽培」や「秋野菜栽培」などを楽しみ、福祉施設にも寄贈します。

○...自然観察ハイキング

自然観察指導員のガイドで、年4回、史跡を巡りながら、花や鳥などを見て回ります。

○...見沼たんぼ清掃ボランティア

○...斜面林の体験学習

○...見沼塾―見沼の自然や文化を学ぶ講座

■ 年会費 個人（同居の家族単位）・団体・企業とも1口¥1,000（団体・企業は3口以上）

## みぬま通信第67号

発行日 平成28年月7月1日

発行所 見沼たんぼくらの

〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町

1-2124-3 小野方

TEL・FAX (048) 683-1764

E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp

URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2016 Minuma Tuusin